

長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校だより（5月号）

青空いっぱい

発行責任者：校長 田中昭二

長	長所を伸ばそう
大	大好きなことを見つけよう
と	ともだちとチャレンジしよう
く	くらす力をつけよう
し	しごとをする力をつけよう

「毎日、畑ば見に行かんばよ」

校内には、畑や花壇があります。授業の中で、子供たちは花や野菜を育てています。

私も学級担任をしたときに子供たちと一緒に野菜を育てました。私自身が小学生だった頃に植物をうまく育てた記憶がなく、野菜を育てることはどちらかというと苦手な分野でした。教員になって最初にチャレンジしたのが「二十日大根」だったことを思い出します。ただ、単純に「二十日くらい経てば、とりあえず収穫できる」という浅い発想しかできない教員でした。浅い発想だったので、二十日くらい経っても当然大根は太りませんでした。今でも苦い思い出の一つです。その後、経験を積む中で、野菜作りがおもしろくなり、とうもろこしや大根（青首、聖護院）、じゃがいも、さつまいも、レタス、なすび、きゅうり、トマト、青梗菜（チンゲンサイ）、玉ねぎなどを育てました。そのうち、耕運機を使えるようになり、支柱を立てたりネットを張ったりすることも覚えしました。野菜作りのコツを忘れないように「畑のメモ」を作って、「植える苗の間隔」、「畝の高さ」などを記録していました。

野菜作りの醍醐味は、何と言っても「収穫」です。例えば、大根の収穫では子供たちが全身に力を入れて引き抜いたり、地中から丸々と太った大根が姿を現した時に驚いた表情を見せたりしていました。「収穫」の瞬間に、これまでの頑張りを体で感じたり、目で見て確かめたりできるのです。

ところで、野菜づくりは「育てる」という意味では、「教育活動」に通じるところがあります。野菜を育てるには、まず、畑を耕し、元肥を施し、畝を立てるといった準備を入念にします。そして、種や苗を植えます。その後は、毎日、畑に行き、野菜の生長の様子を見て、水をやり、雑草をとり、必要に応じて追肥します。また、生長を促すために脇芽を摘んだり、間引きをしたりします。さらに台風が来そうなときは、倒れないように支柱を立てたり土を盛ったりして風に負けないようにします。そして、その結果、野菜が実るのです。

「教育活動」に置き換えると、「子供たちの実態に応じた教材教具などの準備をする」、「授業の過程では子供たちの取組をよく見て必要な指導・支援を行う」、「心が折れそうなときやくじけそうなときは、教員が支柱となって支える」といったことだろうと思うのです。

臨時休業が年度初めにありましたが、学校が再開され、これからの子供たちの育ちが楽しみです。

ところで、見出しの「毎日、畑ば見に行かんばよ」は、野菜作りをする私に先輩の先生がよくかけてくださった言葉です。「育てる」ことの意味を考えると、単に野菜作りに限って「毎日畑を見に行きなさい」ということだけでなく、子供たちにかかわる教員としての姿勢を教えてくださいと改めて思いました。

